

WHO

ノルウエーで発見されたウイルス変異の公衆衛生上の重要性について パンデミック (H1N1) 2009 要約ノート 17

11/20 2009 年 ジェノバ

ノルウエー公衆衛生局は WHO に H1N1 ウイルスの変異株が発見されたと報告を行いました。このウイルスはノルウエー国内で初めて死亡が報告された 2 例と、重症例 1 例から分離されたものでした。

ノルウエーの研究者は発病している 70 人以上の患者からも検体を回収・分析を行いました。変異株は発見されませんでした。このことから変異株は国には広く分布していないと推測されています。

変異が見つかったウイルスはオセルタミビル、ザナミビルなどの抗インフルエンザに感受性があり、最近使用できるようになった新型インフルエンザワクチンも有効であることが示されています。

世界的にみても、ウイルスの監視を行っている研究所では、異なったいくつかの国から 4 月に発見されて以来同様の変異を発見しています。ノルウエーに加えて、変異体はブラジル、中国、日本、メキシコ、ウクライナ、アメリカでも発見されています。

報告のあった症例の情報は完全ではありませんが、死亡例では同様の変異を持つものが報告されている一方、軽症例にも同様の変異を持つものが知られています。世界的にみると多くの死亡例ではウイルスの変異が確認されていません。このため本発見の公衆衛生的な意義ははっきり分かっていません。

変異は散発的、同時に起こっているようです。現在までのところ、変異ウイルスに感染した少数のもの間には関連がなく、変異ウイルスが拡大している所見もありません。

変異の重要性は現在 WHO のネットワークに加盟しているインフルエンザ研究機関で検討されています。遺伝子レベルでウイルスの変異状況は常時監視されている必要があります。しかし、これらの変異の重要性を評価することは困難です。変異の多くはウイルスの重要な性質や病状を変えるものではありません。このため、WHO では臨床データ、疫学的データ双方を利用してリスクの評価を行っています。

現在も調査を進めていますが、これらの変異は H1N1 感染者数を通常以上に増やす、または、重症例・死亡例を増やすことにつながっている証拠はありません。

WHO 世界インフルエンザサーベイランスネットワークに加盟している研究施設では世界中でインフルエンザの厳重な監視を行っており、公衆衛生的に重要となりうるさらなる変異に対して警戒を怠ってはいません。

原文：http://www.who.int/csr/disease/swineflu/notes/briefing_20091120/en/index.html